

平成22（2010）年度

武田学園事業報告書

学校法人武田学園

平成22（2010）年度 武田学園事業報告書

目 次

I. 法人の概要	1
1. 武田学園の教育	1
2. 沿革	2
3. 設置校及び所在地	3
4. 役員	3
5. 学生数	4
6. 教職員数	4
7. 組織概要	5
II. 事業の概要	6
1. 学部学科の設置	6
2. 認証評価	6
3. 教育研究活動	6
4. 国際交流	11
5. 社会貢献・地域貢献活動	12
6. 学生支援サービス	13
7. キャンパス整備	13
8. キャリア形成と卒業生の進路・就職状況	14
III. 財務の概要	18
1. 財産目録	18
2. 貸借対照表	19
3. 収支計算書	21
4. 監事の監査報告書	26

I. 法人の概要

1. 武田学園の教育

建学の精神

第二次大戦後の混乱の時代に、故武田ミキは日本の再建のためには「真実に徹した堅実な女性」の育成こそが急務であると強く感じ、永年の女子教育の経験を生かし、不動の信念と堅い決意をもって、昭和 23 年に本学園を創立しました。

日本女性の持つ伝統的な礼節・慈愛・勤勉という特性を高揚・伸長し、社会風潮に流されることなく、正しく 強く 明るく 生きぬく女性を育成すること、これが本学園の建学の精神です。

学園訓

- 一、真理を究め正義に生き勤労を愛する人になりましょう。
- 一、責任感の強いたくましい実践力のある人になりましょう。
- 一、謙虚で優雅な人になりましょう。

教育方針

学園は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、建学の精神及び「心を育て 人を育てる」という建学の理念に則り、現代社会を支える学問の基礎・基本となる教養と時代の変化・発展に対応できる専門的学問を教授研究し、深い知識と高い識見と豊かな人間性を養い、もって社会の要請に答え得る人間の育成を目的とします。

教育目標

学園は、その理念・目的を踏まえつつ、それぞれの専門的な立場から「正しい判断力とたくましい実践力を身につけた」人材の養成を目指しています。

2. 沿 革

- 昭和 23(1948)年 広島県可部女子専門学校設立
- 昭和 27(1952)年 私立学校法第 31 条による学校法人「武田学園」設立認可
- 昭和 32(1957)年 広島県可部女子高等学校（全日制家政科）開校
- 昭和 37(1962)年 可部女子短期大学（被服科）開校
広島県可部女子高等学校を可部女子短期大学附属高等学校と改称
可部女子短期大学附属高等学校に全日制普通科を設置
- 昭和 39(1964)年 可部女子短期大学に食物栄養科開設
- 昭和 40(1965)年 可部女子短期大学に国文科、英文科開設
- 昭和 41(1966)年 広島文教女子大学開学、文学部（国文学科、英文学科）
可部女子短期大学を広島文教女子大学短期大学部と改称
可部女子短期大学附属高等学校を広島文教女子大学附属高等学校と改称
- 昭和 45(1970)年 広島文教女子大学短期大学部に幼児教育学科開設
- 昭和 46(1971)年 広島文教女子大学附属幼稚園開園
- 昭和 56(1981)年 広島文教女子大学文学部に初等教育学科開設
- 昭和 60(1985)年 大韓民国全州教育大学と国際交流協定締結
- 昭和 61(1986)年 広島文教女子大学大学院（文学研究科修士課程）開設
- 昭和 62(1987)年 広島文教女子大学大学院文学研究科に教育学専攻開設
- 昭和 63(1988)年 中華人民共和国大連外国語学院と国際交流協定締結
- 平成 5(1993)年 広島文教女子大学大学院文学研究科に英米文学専攻開設
アメリカ合衆国オハイオ州立ケント大学と姉妹校の協定締結
- 平成 6 (1994)年 広島文教女子大学短期大学部幼児教育学科学生募集停止
- 平成 8 (1996)年 広島文教女子大学短期大学部専攻科栄養専攻開設
広島文教女子大学短期大学部幼児教育学科を廃止
- 平成 12(2000)年 広島文教女子大学の文学部国文学科、英文学科学生募集停止
広島文教女子大学短期大学部国文学科、英文学科学生募集停止
広島文教女子大学の「文学部」を「人間科学部」と名称変更
広島文教女子大学人間科学部に人間言語学科、人間文化学科、人間福祉学科開設
- 平成 13(2001)年 広島文教女子大学短期大学部英文学科廃止
- 平成 14(2002)年 広島文教女子大学短期大学部生活科学科、食物栄養学科学生募集停止
広島文教女子大学人間科学部に心理学科、人間栄養学科開設
広島文教女子大学短期大学部国文学科廃止
- 平成 15(2003)年 広島文教女子大学短期大学部生活科学科廃止
- 平成 16(2004)年 広島文教女子大学人間科学部人間文化学科学生募集停止
広島文教女子大学文学部国文学科廃止

- 平成 17(2005)年 広島文教女子大学大学院文学研究科の名称を「人間科学研究科」と名称変更
 広島文教女子大学短期大学部専攻科栄養専攻廃止
 広島文教女子大学短期大学部閉校
- 平成 18(2006)年 広島文教女子大学文学部英文学科廃止
 広島文教女子大学大学院人間科学研究科国語学国文学専攻、英米文学専攻廃止
- 平成 19(2007)年 広島文教女子大学大学院人間科学研究科人間福祉学専攻設置認可
- 平成 20(2008)年 広島文教女子大学大学院人間科学研究科人間福祉学専攻開設
- 平成 21(2009)年 広島文教女子大学人間科学部人間言語学科の学生募集を停止
- 平成 22(2010)年 広島文教女子大学人間科学部にグローバルコミュニケーション学科開設

3. 設置校及び所在地 (平成 23 年 4 月 1 日現在)

- <大 学> 広島文教女子大学 (広島市安佐北区可部東 1-2-1)
 人間科学部 (人間言語学科、人間福祉学科、初等教育学科、心理学科、人間栄養学科、グローバルコミュニケーション学科)
- <大 学 院> 広島文教女子大学大学院 (広島市安佐北区可部東 1-2-1)
 人間科学研究科 (教育学専攻、人間福祉学専攻)
- <高 等 学 校> 広島文教女子大学附属高等学校 (広島市安佐北区可部東 1-2-3)
 全日制課程普通科
- <幼 稚 園> 広島文教女子大学附属幼稚園 (広島市安佐北区可部東 1-1-15)

4. 役員

(平成 23 年 4 月 1 日現在、理事定数 11 名、現員 11 名、監事定数 2 名、現員 2 名)

理事 (理事長)	武田 哲司	理事 (非常勤)	大越 藤夫
理事 (学長)	角重 始	理事 (非常勤)	児玉 裕志
理事 (校長)	石井 宏佳	理事 (非常勤)	田中 豊實
理事 (園長)	井丸 義之	理事 (非常勤)	大内 良治
理事 (学園統括部長)	武田 義輝	理事 (非常勤)	中川 博
理事 (非常勤)	桑原 正彦	監事 (非常勤)	友廣 和有
監事 (非常勤)	久保田 宏温		

5. 学生数

大学等における3年間の在籍状況は、次表のとおりです。 (各年度5月1日現在)

区 分	平成21年度			平成22年度			平成23年度		
	現員	収容 定員	充足率	現員	収容 定員	充足率	現員	収容 定員	充足率
広島文教女子大学	1,203	1,676	0.72	1,178	1,676	0.70	1,228	1,676	0.73
大 学 院	33	36	0.92	29	36	0.80	23	36	0.64
人 間 科 学 部	1,170	1,640	0.71	1,149	1,640	0.70	1,205	1,640	0.73
人 間 言 語 学 科	111	300	0.37	81	230	0.35	49	160	0.31
グローバルコミュニケーション 学 科	—	—	—	20	70	0.29	50	140	0.36
初 等 教 育 学 科	385	320	1.20	410	320	1.28	466	320	1.46
人 間 福 祉 学 科	230	440	0.52	194	440	0.44	182	440	0.41
心 理 学 科	153	300	0.51	140	300	0.47	149	300	0.50
人 間 栄 養 学 科	291	280	1.04	304	280	1.09	309	280	1.10
広島文教女子大学 附 属 高 等 学 校	464	480	0.97	461	480	0.96	549	480	1.14
広島文教女子大学 附 属 幼 稚 園	115	160	0.72	104	160	0.65	103	160	0.64
計	1,782	2,316	0.77	1,743	2,316	0.75	1,880	2,316	0.81

6. 教職員数

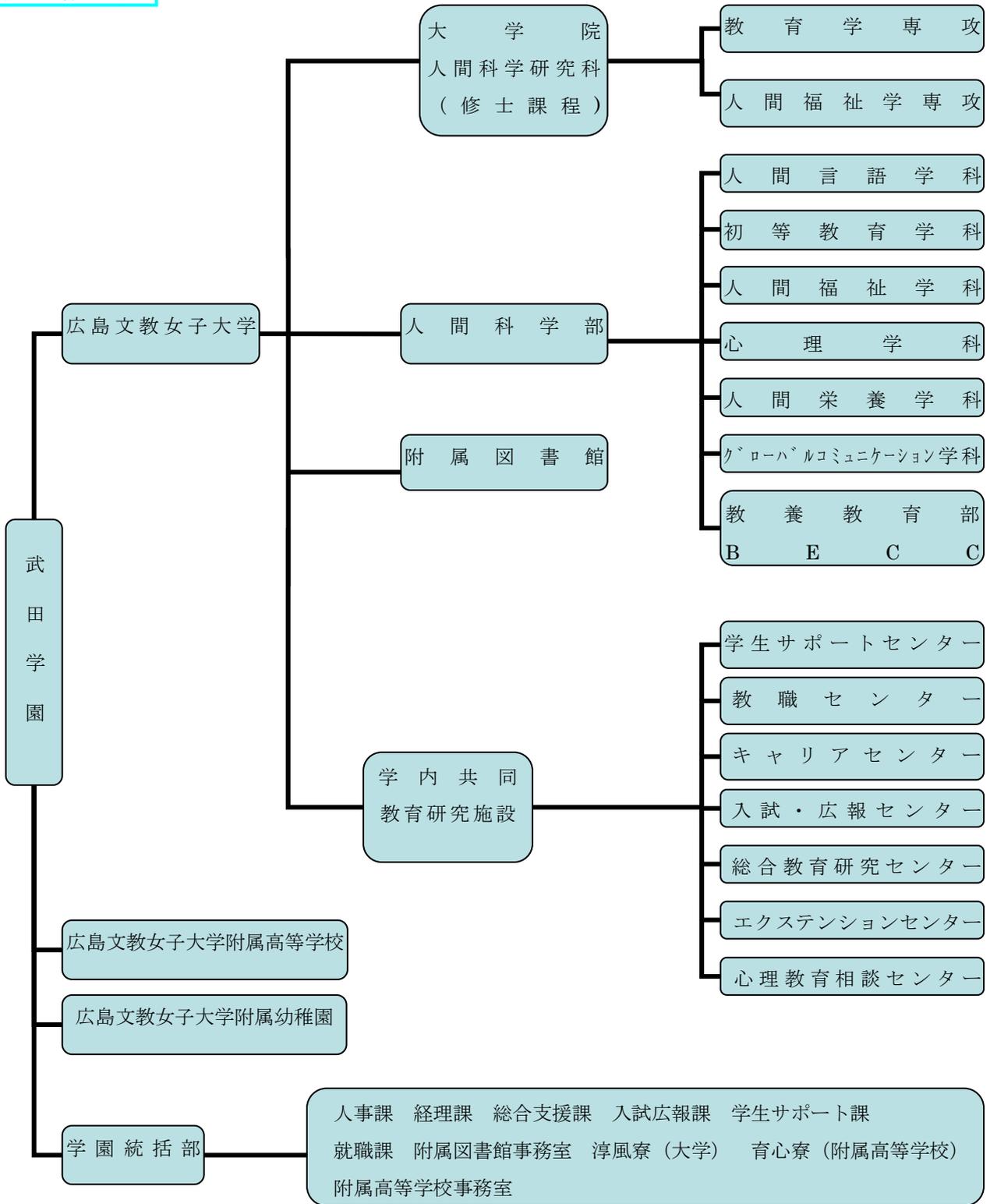
(各年度5月1日現在)

区 分	平成21年度			平成22年度			平成23年度		
	専 任 教 育 職 員	非 常 勤 教 育 職 員	専 任 事 務 職 員	専 任 教 育 職 員	非 常 勤 教 育 職 員	専 任 事 務 職 員	専 任 教 育 職 員	非 常 勤 教 育 職 員	専 任 事 務 職 員
広島文教女子大学	86	134	45	97	121	42	93	116	42
附 属 高 等 学 校	34	16	4	34	17	5	34	19	3
附 属 幼 稚 園	8	9	1	7	9	1	7	7	1
計	128	159	50	138	147	48	134	142	46

7. 組織概要（平成23年4月1日現在）

法人組織及び設置する各学校の組織は、次のとおりです。

学 校 法 人
武 田 学 園
組 織 図



II. 事業の概要

1. 学部学科の設置

① 学部学科の整備

平成 19 年度新規教育事業として、人間福祉学科に介護福祉士養成コース定員（20 名）の設置認可を申請し、平成 19 年 3 月 7 日付け、文部科学大臣及び厚生労働大臣の連名による指定書を受け取り、平成 19 年 4 月 1 日開設した。

② 学部学科の設置

文部科学省に平成 21 年 6 月 26 日付け届け出た「広島文教女子大学人間科学部グローバルコミュニケーション学科設置届出書」を、平成 21 年 8 月 31 日付け受理（平成 21 年 6 月分）され、平成 22 年 4 月 1 日付けで広島文教女子大学人間科学部グローバルコミュニケーション学科の開設が認められました。

③ 大学院の改組

平成 17 年度に大学院人間科学研究科教育学専攻の入学定員を 15 名に改訂するとともに、国語学国文学専攻入学定員 5 名及び英米文学専攻入学定員 5 名の学生募集を停止し、平成 18 年度末をもって国語学国文学専攻及び英米文学専攻を廃止した。

平成 19 年 12 月 3 日付けで大学院人間科学研究科人間福祉学専攻入学定員 3 名の文部科学大臣認可書を受け取り、平成 20 年 4 月 1 日開設した。

2. 認証評価

広島文教女子大学は、平成 18 年 10 月、財団法人日本高等教育評価機構により認証評価のための実地調査を受け、平成 19 年 3 月 29 日付けで同機構が定めている大学評価基準を満たしていると『認定』されました。

3. 教育研究活動

(1) 広島文教女子大学

1) 大学ミッション

① 広島文教女子大学は、謙虚で優雅な人間性を育むとともに、やさしくあたたかい心で他者を思いやることのできる人を育成します。

② 広島文教女子大学は、正しい判断力とたくましい実践力を身につけた人を育成します。

③ 広島文教女子大学は、地域とともに成長しつづける大学をめざします。

2) 教育活動

カリキュラム改革により、導入教育「大学生活概論」「教養演習」を改編・新設すると共に一般教育科目の再編、専門教育科目の継続的な見直しを行い、より適切な教育課程の実現に努めています。さらに、特色ある教育内容・方法として、教育

理念及び育成すべき人材像を示し、建学の精神・教育理念を周知させる科目「人間科学入門」、社会で生きることを考えさせる科目「人生論」などを設けて、独自の教育の基礎としています。

平成 20 年度より、神田外語大学との連携による BECC「英語コミュニケーション総合学習施設」を導入・設置しました。

3) 研究活動

教学系組織の再編に伴い、学内の組織・研究体制に大幅な改革を実施し、効果的に運営するため、努力しています。また、平成 17 年度から「教育・研究活動支援プログラム助成金制度」を設け、「学内版科学研究費助成」「学内版特色 G P 助成」を置くなどして、研究助成と教育研究活動の連携を図りつつ、教育研究活動の活性化を図る体制を整備しています。

さらに、平成 19 年度から教員の研究活動の充実を図るため、研究費の支援や授業及び校務の軽減を図る等の研究支援制度を設け教員の研究活動の士気を鼓舞している。

4) キャリア教育の導入

本学は、平成 21 年度「大学教育・学生支援推進事業」就職支援プログラム（取組名称：出口を見据えた「心を育て 人を育てる」教育の推進）に応募し、選定されました。この事業は、学生自身の内的キャリアを見極め、それに沿ったキャリアパスを描き、多様に変化する時代にしなやかに、かつ、逞しく対応していく力をつけることを目指したキャリア教育を導入して、教育カリキュラムを補完しつつ、本学の教育理念に沿った人材育成を実現することで、就職力を高めることを目的としたものです。

(2) 広島文教女子大学附属高等学校

1) 高等学校ミッション（目指す生徒像）

- ① 豊かな心を持ち誠実さにあふれた生徒を育成します。
- ② 学ぶことに価値を見出し、より高い目標に挑戦する生徒を育成します。
- ③ さまざまな課題や状況に応じて、最もふさわしい判断と行動ができる生徒を育成します。

2) 教育方針

- ① 建学の精神に基づいた心の教育の推進
豊かでしなやかな心を持ち、誠実さにあふれた生徒を育成します。
- ② 学力の向上と進路指導
学ぶことに価値を見出し、より高い目標に挑戦する生徒を育成します。
- ③ 女性として自立できる教育の実践

さまざまな課題や状況に応じて、最もふさわしい判断をし、リーダーシップのとれる、たくましい生徒を育成します。

3) 教育実践

① 「心と形の教育」の推進

i 人に関わる時の行動は、すべて「心遣い」に基づく行動であるとし、その行動の一つに、その場にふさわしい「あいさつ」ができることを目指しています。

具体的には、臨機応変に「立ち止って」品位ある挨拶ができる生徒を育成します。

ii 地域貢献型学校をめざしたソシオ活動を強力に推進し、成功体験を重ねることにより、生徒一人ひとりの内面を充実させ、自立した生徒の育成を目指しています。

iii 教師全員が個々の生徒にしっかりとかわり、心を鍛える指導を行なっています。

iv 生徒・保護者の気持を考えた教育活動の実践とその支援を行います。

② 進路実現をめざす学力向上への取り組み

i 学習に対する達成感を味わせるとともに、国公立大学をはじめ難関私立大学への進路実現をめざした学力向上に取り組んでいます。

ii 高大連携を強化し、広島文教女子大学との継続的な教育活動をも展開しています。

iii 各教科の教職員が、組織的に個々の授業レベルを上げ、生徒全員の教科学力の向上を図っています。

iv 生徒の適性・能力・個性を把握し、より高い目標に向けた進路が実現できるよう、進路相談活動やホームルーム活動などを充実させます。

③ 社会の進展に応じた教育の実践

i 留学生の受け入れを行なうとともに、外国との学校間交流等を促進し、異文化理解教育の充実を図ります。

ii BECC「英語コミュニケーション総合学習施設」の活用、CALL教室（コンピュータを活用した外国語教育システム）の活用、ALT「外国語指導助手（ALT: Assistant Language Teacher）」による指導、海外語学研修修学旅行、留学生との交流などをおして、積極的に外国語を活用していく態度を育てています。

iii 情報社会に対応したカリキュラムにより情報教育を推進しています。

iv 環境保護にかかわりを持たせる活動を行っています。

④ 「女性の生き方を考える学習プログラム」の構築

i 私たちは、創設者 武田 ミキ先生の教育理念を再確認し、情熱と愛情に満ち溢れた「たくましい前姿」を見せる教育を実践しています。

- ii 「男女共同参画社会」に生きる女性として、自立し、コミュニケーション能力豊かで、リーダーシップのとれる資質を養う教育（ミキ学）を確立、実践しています。

(3) 広島文教女子大学附属幼稚園

1) 幼稚園ミッション

心と身体にひびく体験を通して「元気いっぱい笑顔いっぱい」の子どもらしい子どもを育てています。

2) 教育目標

「心豊かで 社会性に富み 自立した子ども」を育てる

3) 教育方針

建学の精神である「心を育て人を育てる」を柱として、一人ひとりの園児への個別的な配慮のもと、「一人で できた」という体験を積み重ねることにより自立を促し、3つの心「元気な心」「強い心」「やさしい心」を育てています。

3つの心とは

元気な心

- 夢中になって遊び、みんなと喜びを分かち合える子ども
(全身を使って、仲間と楽しみ、進んで遊びに入っている)
- 笑顔であいさつできる明るい子ども
(登園、降園の時の挨拶や、人にあった時の挨拶などが自然にできる)

強い心

- きまりがわかり、我慢強くがんばる子ども
(ありがとう、ごめんなさい、の言葉が素直に言える)
- たくさんの興味や好奇心を持てる子ども
(経験の中から興味、関心を持てるようになる)

やさしい心

- 友だちを思いやり、みんなと仲良くできる子ども
(他者の痛みや喜びに共感できるようになる)
- 自分の気持ちや思い、感じたことを素直に表現できる子ども
(喜びや、悲しみ、などの喜怒哀楽を伝えることができるようになる)

4) 教育実践

① モンテッソーリ教育の実践

モンテッソーリ教育切替3年目を迎え、学級編成を年少、年中、年長、3年齢混合縦割りクラス編成(4クラス)としました。幼児期ならではの体験を大

切にし、子ども同士の関わりを深める中で3つの心を育んでいます。

本年は、国費補助金を活用し、感覚教具、言語教育、数教育等の教具を整備することができました。

また、本年も、教職員の指導力を高めるため、引き続き戸田先生（国際ディプロマ資格所有）を特認教諭としてお願いし、園内研修（モンテッソーリ教育）を充実すると共に、教材開発に努め、登園後10時まで「自分で選び」「熱中し」「やりとげた喜びを感じられる」活動の時間としてチャレンジタイムを設け実践を積み重ねています。

② 大学附属としての利点を活用した専門性のある教育内容と保育の実践

ア. リトミック（各年齢にあわせた内容で学期1回）

講師を本大学の善本准教授にお願いし、ピアノのリズムに合わせて身体で表現することで、リズム感や自分で判断する力や集中力を身につけながら音や身体表現を楽しんでいます。

園児たちは、音符カードを見て音の長さや強弱を身体で表現することもできるようになりました。

イ. 子育て相談（特別支援教育及び保護者対象の相談活動）

園児の実態に応じた指導を行うために、定期的に臨床心理士（李木教授）の先生を招聘し園内研修を行ってきました。また、保護者の教育相談のために月1回相談日を開催し、保護者からたいへん喜ばれています。

ウ. 園舎のステンドグラス

毎年夏休みに、初等教育学科の美術専攻生が指導教授（若本非常勤講師）と共に来園し、たまごホールの広いガラス戸いっぱい楽しい絵を描いてくれます。園児たちは、1年間その絵を見ながら楽しく過ごしています。

③ 絵本、紙芝居の読み聞かせ

集中力、創造力を高めるために、各クラスで毎日絵本、紙芝居に親んでいます。また、週1回は絵本の貸し出しも実施しており、沢山の絵本（約5000冊）に出会い、絵本が大好きな子どもたちが増えています。

④ 積木（WAKU-BLOCK）の取り組み

集中力や注意力、とりわけ、人間に深い精神的充実感をあたえる創造力を、楽しみながら開花させることをねらって積木（WAKU=BLOCK）に取り組んでいます。園児の実態に即して、みたく遊び（ごっこ遊び）やパターン遊び（模倣遊び）・認識探求遊び（パズル・ゲームなど）と発展的に取り組んできました。

⑤ 土曜参加日

学期に1回は土曜日を「土曜参加日」とし、保護者の方々に来園いただき、子どもたちと一緒にあそんでもらいます。我が子だけでなくいろんな子ども

たちとの触れ合いを楽しんでもらいます。

⑥ 地域の方々との交流

ア. 地域の方々を指導者として招き、楽しく活動しています。園行事「秋まつり」や「花火大会」には、再度ご来園いただき指導を受けるとともに園児と一緒に楽しんでもらっています。

おじいちゃんやおばあちゃんのやさしさ・あたたかさ等を十分に感じられる交流です。伝承あそびのおもしろさを親子共々が体験しています。

- ・竹とんぼ名人・・・竹とんぼづくりやあそびかたの指導
- ・地域の女性会・・・盆踊りの指導や伝承遊びの指導

イ. ディアレスト可部の方々との交流

- ・毎月の誕生会への招待
- ・施設訪問（歌・合奏の披露と触れ合い遊び）

体験訪問を通して、お年寄りにも、いろいろな方がおられることを学んでいます。また、子どもたちが話したり、触れ合ったりすることで、お年寄りの方々が大変喜んでおられることを肌で感じ、いたわりの心や優しい心を持つことの大切さを学んでいます。

⑦ 子育て支援

ア. こころフレnds

入園前の親子を対象とし、園での遊びを体験して楽しんでいただきます。

1学期は、火・水・金週3回、曜日ごとにグループを作り各グループ週1回出席で実施しています。大変好評で2学期からは月曜日グループを増やし、入園受付の終わる10月末まで開催しました。11月からは、入園確定した幼児を対象に3月6日の入園体験前まで週1回のペースで実施し保護者からも大変好評でした。幼児たちも幼稚園生活に慣れ、4月の年度当初落ち着いた出発ができるのではと期待しています。

イ. 預かり保育の時間延長（保育終了後から6時まで）

長期休業中は、8:00～18:00に時間延長し、保護者からも喜ばれています。

⑧ 保護者のサークル活動

保護者同士の交流のために5つのサークルが活動しています。参加することで保護者同士の仲間意識もひろがり、子育ての喜びや楽しみ、そして苦しみ等お互いの情報を交換することができ、子育て支援の場にもなっています。

4. 国際交流

(1) 広島文教女子大学

協定校のアメリカ合衆国オハイオ州立ケント大学においては、夏期研修(2ヵ月)

及び長期留学(8ヵ月)で学修した単位を、制度化された単位の読み換え基準に従い、卒業の単位として認定しています。

(2) 広島文教女子大学附属高等学校

修学旅行の1コースとして、海外ホームステイコースを設定しており、平成20年度は30名がカナダ、ブリティッシュコロンビア州アボッツフォード市のMEI「Mennonite Educational Institute」高等学校で語学研修とホームステイ(約14日間)を経験させました。

留学生受け入れとしましては、今年度は来校者はありませんでした。

また、広島北ロータリークラブ留学生事業として、本校生徒1名がアメリカ合衆国ハワイ州へ約1年間のホームステイ留学を行いました。修得単位読み換えにより本校卒業後は、留学で修得した語学力を生かし、関西外語大学へ進学をしました。

5. 社会貢献・地域貢献活動

(1) 広島文教女子大学

広島市安佐北区に唯一の大学として、司書講習や公開講座を継続実施し、体育施設、教室、図書館の開放など、地域への貢献を行っています。また、心理教育相談センターでは、地域の子供たちの心理相談を実施し、地域にとっても重要な施設として認知されています。さらに、平成16年度には、地域貢献型の大学として地域社会と連動して活動する「ソシオ学校」構想の具現化を計り、地域社会との密接な関係を推進しています。そのためにも「地域ニーズ」の把握に取り組み、具体的には、平成18年度から、学生たちが「地域の子育て支援」にかかわる活動を始めています。

平成20年度においては、文部科学省の委託事業として平成21年度からの制度実施を控えた「教員免許状更新講習」の試行実施を行い、平成21年度からの本格的な実施へ向けその制度造りにも取り組み、近隣地域の多くの現職教員から好評を得ました。

また、平成21年6月には、広島文教女子大学と広島市安佐北区役所とで、安佐北区内のまちづくり等に関する取組について、包括的な連携協力を行う「地域連携協力に関する協定書」を締結して、お互いの持つ人材・知識・情報などの資源を生かし、活発な活動を行って区民の方々から好評を得ています。

(2) 広島文教女子大学附属高等学校

3年前から取り組んでいる「ソシオ学校」(教育活動そのものが地域貢献となる活動)を21年度も各クラブ単位で組み込みました。各クラブで生徒を中心に企画し、地域の小学校の行事で実験の企画、児童館での読み聞かせ、ボランティア演奏会など、各クラブでさまざまな取り組みを行いました。

4月15日の創立60周年記念式典には全校生徒が出席し、その後2、3年生は日頃お世話になっている地域に貢献するため、生徒会の主催で地域清掃活動を行い

ました。また、1年生は、武田学千名誉顧問による「建学の精神」「創設者 武田 ミキ先生の教育理念と生きざま」についての講話を聴き、武田学園に対する理解を深めました。

6. 学生支援サービス

学生の学習及び生活指導などを総合的に実施するための枠組みとして機能することを目的に、平成18年度には校務分掌の改変を行いました。平成20年度からは、入学前教育を含む学習支援として学習支援室を設置しました。

一方、本学の学生に対する経済的支援は、奨学金制度、学納金等優遇減免制度、留学生支援援助制度及び教育ローン利息補給制度があり、それぞれの目的に応じて有機的に機能させています。

その他、学生の健康面、心理面、生活面のサポートは、保健室、学生相談室、学生サポート課が緊密な連携を取りつつ行っています。

7. キャンパス整備

(1) 広島文教女子大学

教育研究目的を達成するに十分な諸施設・設備を配置し、教職員により適切に維持、管理を行っています。ブックセンター（図書、文具等販売）や学生談話室なども整備し、学友会の要望から学内にコンビニエンスストアを設置しています。

教室環境では、少人数教育の充実を図るために、100人以下の教室について、情報環境整備を計画しています。

平成20年度からの英語コミュニケーション総合学習施設（BECC）の開設に合わせて、1号館絵画実習室移転改装工事により8号館をBECC棟として完成し稼働させました。

平成21年度は、8号館BECC棟用として学生用クライアントパソコン62台の設備を導入しました。また6号館のプロジェクター関連機器を最新のものに更新しました。

また、文部科学省の平成21年度私立大学等研究設備整備費等補助金により、任天堂DSを利用したeラーニングの専用機器を導入しました。

(2) 広島文教女子大学附属高校

正面玄関タイル張り替え工事を行い、玄関周りをリニューアルしました。

(3) 広島文教女子大学附属幼稚園

広島県の幼児教育の質向上緊急環境整備事業費補助金により、地上デジタル放送の受信設備等を導入しました。

(4) 広島文教女子大学淳風寮

淳風寮食堂の空調設備機器の取替え更新や、給食室業務用台下冷凍庫の設備更新を行いました。

8. キャリア形成と卒業生の進路・就職状況

(1) 広島文教女子大学

平成23年3月卒業生の就職率は96.8%となり、前年の95.1%から1.7ポイントの伸びとなりました。職業別割合としては、専門職に就く学生が7割を超えるという全体傾向は今年度も変化がありませんでしたが、平成22年3月の卒業生と比較して大きく増加したものが保育士(3.3割)、逆に減少したものが小学校教諭(△4.8割)、介護・福祉職(△4.4割)という結果になりました。一般職では、接客・販売職が3.4割増加しましたが、事務職が△3.3割となりました。事務職の減少は、平成21年3月卒業生と比較すると9.7割の減少となり、一般企業への就職の厳しさが顕著にあらわれました。一般就職をめざす学生にとってはこれまでも増して、長く厳しい就職活動になりました。

キャリアセンター・就職課では、平成22年度の就職支援と指導の方針を次のとおりとし、希望進路の実現に向けた支援を行いました。

①小規模大学の強みを活かした個別支援

一人ひとりに向き合う個別支援に重点を置き、百人百様のきめ細かなサポートを徹底して行いました。具体的には、これまで行っていた4年生の全員面談に加え、3年生の面談(希望者のみ)を追加、また文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」に採択された「出口を見据えた“心を育て 人を育てる”教育の推進」の補助金を利用して、キャリアコンサルタントを4名(内、3名は非常勤)配置し、いつでもキャリア・コンサルティングが受けられる体制を整えました。

②女子大ならではのキャリア教育

女性のキャリア形成は結婚・出産などのライフイベントの影響を受けやすく、男性のキャリア形成と異なります。ライフイベントによって職業人生を中断した場合でも、再びキャリアを継続して形成していく力を育て、真の女性の自立をめざしたキャリア教育を展開しています。また、カリキュラム外では、「職場見学」や就職活動を終えた学生とこれから就職活動に向かう学生とをつなぐ「就活駅伝」など、新たなキャリア形成支援を行いました。

その他、「保護者のための就職ガイダンス」を新たに企画・実施し、保護者との連携を強化しました。

(2) 広島文教女子大学附属高等学校

本校の卒業生の進路は、次の表に示すように、ほとんどが進学である。その中でも、近年国公立大学へ進学希望・合格実績も増加しており、平成22年度は国公立大学にはA、Bコース合わせて7名が合格、進学しました。

広島文教女子大学への進学志望も高く、Bコースの40%が進学しています。就職希望者も全員志望を達成しました。平成22年度卒業生も希望進路に向け最後まで努力し、よく健闘しました。

本校では、進路の夢をまず大きく広げ、その実現を目指して日々の学校生活を頑張る指導を行っています。大学見学や大学模擬授業、附属幼稚園観察実習、一日看護体験実習、介護体験実習など、自分の夢を確認し、強くできる企画もしています。

また、4年制大学進学希望者は、全員センター試験を受験することを前提として指導しており、今年度のセンター試験受験者は、139名中57名でした。

平成23年度入試 合格状況

国公立大学(文部科学省管轄外も含む)○の数字は既卒生を表す

附属高等学校

学 校 名	学 部 名	学 科 名	合格者数
山口大学	農	生物資源環境	1
島根大学	総合理工	地球資源環境	1
		生物資源環境	①
愛媛大学	医	看護	1
金沢美術工芸大学	美術工芸	デザ/視覚デ	1
県立広島大学	人間文化	国際文化	1
高知工科大学	マネジメント	マネジメント	1
国公立大学合格者数合計			7

私立大学 県外

学 校 名	学 部 名	学 科 名	合格者数
尚美学園大学	総合政策	ライフマネジメント	1
芝浦工業大学	システム理工	数理科学	①
女子美術大学	芸術	デザイン・工芸/ヴィジュアルデザイン	1
東海大学	農	応用動物科学	1
明星大学	理工	総合理工	1
日本福祉大学	社会福祉	社会福祉	1
大阪芸術大学	芸術	放送	2
大阪樟蔭女子大学	学芸	国文/国語国文学	1
梅花女子大学	文化表現	情報メディア	1
姫路独協大学	経済情報	経済情報	1
岡山理科大学	総合情報	生物地球システム	3
吉備国際大学	社会	スポーツ社会	1
山口東京理科大学	工学	応用化学科	1
県外私立大学合格者数合計			16

私立大学 県内

学 校 名	学 部 名	学 科 名	合格者数
広島文教女子大学	人間科学	グローバルコミュニケーション	12
		初等教育	20、①
		人間福祉	18
		心理	9
		人間栄養	3
	小 計	63	
エリザベト音楽大学	音楽	音楽文化	1
広島文化学園大学	看護	看護	1
比治山大学	現代文化	マスコミュニケーション	1
広島経済大学	経済	経済	3
		メディアビジネス	2
広島工業大学	環境	地球環境	2
広島国際学院大学	情報デザイン	情報デザイン	1
日赤広島看護大学	看護	看護	1
広島修道大学	人文	英語英文	5
		人間関係／教育学	1
		人間関係／社会学	1
		人間関係／心理学	1
	法	国際政治	1
	商	経営	1
	経済科学	現代経済	2
		経済情報	1
人間環境	人間環境	2	
安田女子大学	文	英語英米文	3
		日本文／書道文化	3
		日本文／日本文学	5、①
		心理	4
	現代ビジネス	現代ビジネス	2
	家政	生活デザイン	4
広島女学院大学	文	英米言語文化	7
		日本語日本文	1
	生活科学	生活デザイン	2
広島国際大学	医療経営	医療経営	2

	医療福祉	医療福祉/介護福祉	1
	看護	看護	4
広島都市学園大学	健康科学	看護	2
県内私立大学合格者数合計			131

私立短期大学

学 校 名	学 科 名	合格者数
山陽女子短期大学	臨床検査	1
比治山大学短期大学部	総合生活デザイン／総合系	1
広島文化学園大学短期大学	保育	2
安田女子短期大学	秘書	1
	保育	1
私立短期大学合格者数合計		6

専門学校

学 校 名	専 攻 名	進学者数
広島歯科衛生専門学校		1
YMCA 米子医専門学校	理学療法士	1
広島デンタル専門学校		2
広島市立看護専門学校		1
放送芸術学院	俳優科	1
広島 YMCA 専門学校	ホスピタリティ科/ホテル・デュアルコース	1
	医療事務科/医療事務・歯科助手コース	1
広島酔心調理師専門学校	製菓衛生師本科	1
広島美容専門学校	美容科	2
広島製菓専門学校	洋菓子科	1
広島リゾート&スポーツ専門学校	健康スポーツ科	1
広島自動車大学校		1
広島市医師会看護専門学校	医療高等課程	1
専門学校進学者数合計		15

就職

就職者数合計	1
--------	---

Ⅲ. 財務の概要 (平成 22 年度決算の状況)

1. 財産目録

財産目録については、次表のとおりです。

財産目録(平成23年3月31日現在)			
I 資産総額		11,162,832,269 円	
内 基本財産		8,209,329,195 円	
運用財産		2,953,503,074 円	
収益事業用財産		－ 円	
II 負債総額		1,263,307,080 円	
III 正味財産		9,899,525,189 円	
区 分		金 額	
資産額			
1 基本財産			
土地	145,229m ²	2,473,221,813 円	
建物	43,317m ²	4,090,374,896 円	
図書	237,472冊	1,067,290,825 円	
教具・校具・備品	17,668点	178,080,269 円	
その他		400,361,392 円	
2 運用財産			
現金預金		2,282,208,324 円	
その他		671,294,750 円	
3 収益事業用財産			
		－ 円	
資産総額		11,162,832,269 円	
負債額			
1 固定負債			
長期借入金		168,270,000 円	
退職給与引当金		471,631,717 円	
2 流動負債			
短期借入金		42,020,000 円	
未払金		48,374,377 円	
前受金		505,220,500 円	
預り金		27,791,386 円	
負債総額		1,263,307,080 円	
正味財産(資産総額－負債総額)		9,899,525,189 円	

2. 貸借対照表

貸借対照表については、次表のとおりです。

資産の部合計は、11,163百万円、前年比185百万円(1.6%)減少、その内訳は、有形固定資産が28百万円(2.6%)増加、その他の固定資産は19百万円(4.3%)減少、流動資産が194百万円(7.5%)減少となりました。負債の部合計は、1,263百万円、前年比19百万円(1.6%)増加、となりました。基本金の部合計は14,953百万円、前年比244百万円(1.7%)増加、となりました。

[平成22年度決算]

貸借対照表

平成23年3月31日

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	8,769,242,301	8,759,743,008	9,499,293
有形固定資産	8,338,509,727	8,309,633,587	28,876,140
土地	2,602,402,345	2,580,443,259	21,959,086
建物	4,090,374,896	4,275,264,510	△ 184,889,614
その他の有形固定資産	1,645,732,486	1,453,925,818	191,806,668
その他の固定資産	430,732,574	450,109,421	△ 19,376,847
流動資産	2,393,589,968	2,587,983,759	△ 194,393,791
現預金	2,282,208,324	2,497,507,385	△ 215,299,061
その他の流動資産	111,381,644	90,476,374	20,905,270
資産の部合計	11,162,832,269	11,347,726,767	△ 184,894,498
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	639,901,717	693,583,807	△ 53,682,090
長期借入金	168,270,000	210,290,000	△ 42,020,000
その他の固定負債	471,631,717	483,293,807	△ 11,662,090
流動負債	623,405,363	550,393,206	73,012,157
短期借入金	42,020,000	42,180,000	△ 160,000
その他の流動負債	581,385,363	508,213,206	73,172,157
負債の部合計	1,263,307,080	1,243,977,013	19,330,067
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	14,716,144,930	14,471,780,078	244,364,852

第3号基本金	50,000,000	50,000,000	0
第4号基本金	187,000,000	187,000,000	0
基本金の部合計	14,953,144,930	14,708,780,078	244,364,852
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	5,053,620,641	4,605,030,324	448,590,317
消費収支差額の部合計	△5,053,620,641	△4,605,030,324	△448,590,317
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	11,162,832,269	11,347,726,767	△ 184,894,498

(注記)

1. 減価償却額の累計額の合計額 6,407,768,099 円
2. 徴収不能引当金の合計額 1,260,000 円
3. 翌会計年度以降の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額 33,690,290 円

3. 収支計算書 [平成 22 年度決算]

(1) 資金収支計算書

資金収支計算書は、次表のとおりです。

資金収支計算書

平成 22 年 4 月 1 日から

平成 23 年 3 月 31 日まで

(学園全体)(単位 円)

収入の部			
科 目	予算額	決算額	差 異
学生生徒等納付金収入	1,491,440,000	1,507,924,649	△ 16,484,649
手数料収入	22,600,000	32,530,190	△ 9,930,190
寄付金収入	15,100,000	15,075,000	25,000
補助金収入	460,585,088	479,905,563	△ 19,320,475
国庫補助金収入	268,686,000	266,058,000	2,628,000
地方公共団体補助金収入	191,899,088	213,847,563	△ 21,948,475
資産運用収入	11,580,000	10,016,983	1,563,017
資産売却収入	120,000,000	120,000,000	0
事業収入	108,820,000	120,563,320	△ 11,743,320
雑収入	73,511,300	105,562,701	△ 32,051,401
前受金収入	458,097,000	505,220,500	△ 47,123,500
その他の収入	82,512,572	81,459,678	1,052,894
資金収入調整勘定	△ 550,576,347	△ 557,380,135	6,803,788
前年度繰越支払資金	2,497,507,385	2,497,507,385	
収入の部合計	4,791,176,998	4,918,385,834	△ 127,208,836
支出の部			
科 目	予算額	決算額	差 異
人件費支出	1,555,604,347	1,503,812,492	51,791,855
教育研究経費支出	501,057,447	479,319,319	21,738,128
管理経費支出	266,826,335	232,922,160	33,904,175
借入金等利息支出	3,443,416	3,442,362	1,054
借入金等返済支出	42,180,000	42,180,000	0
施設関係支出	423,950,000	238,348,159	185,601,841
設備関係支出	57,686,125	56,872,428	813,697
資産運用支出	100,013,200	100,013,200	0
その他の支出	33,360,406	30,626,002	2,734,404

[予備費]	(9,600,000)		
	15,400,000		15,400,000
資金支出調整勘定	△ 42,984,235	△ 51,358,612	8,374,377
次年度繰越支払資金	1,834,639,957	2,282,208,324	△ 447,568,367
支出の部合計	4,791,176,998	4,918,385,834	△ 127,208,836

(注記)

1. 予備費 9,600,000 円の使用額は下記のとおりである。

設備関係支出

教育研究用機器備品支出	9,600,000 円
合 計	9,600,000 円

(2) 消費収支計算書

消費収支計算書は、次表のとおりです。

消費収支計算書

(単位 円)

消費収入の部合計			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	1,491,440,000	1,507,924,649	△ 16,484,649
手数料	22,600,000	32,530,190	△ 9,930,190
寄付金	17,300,000	17,463,010	△ 163,010
補助金	460,585,088	479,905,563	△ 19,320,475
国庫補助金	268,686,000	266,058,000	2,628,000
地方公共団体補助金	191,899,088	213,847,563	△ 21,948,475
資産運用収入	11,580,000	10,016,983	1,563,017
事業収入	108,820,000	120,563,320	△ 11,743,320
雑収入	74,223,477	106,274,878	△ 32,051,401
帰属収入合計	2,186,548,565	2,274,678,593	△ 88,130,028
基本金組入額合計	△ 504,196,125	△ 285,309,336	△ 218,886,789
消費収入の部合計	1,682,352,440	1,989,369,257	△ 307,016,817
消費支出の部合計			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	1,558,085,047	1,492,862,579	65,222,468
教育研究経費	718,935,585	699,854,135	19,081,450
管理経費	293,013,904	278,012,085	15,001,819
借入金等利息	3,443,416	3,442,362	1,054
資産処分差額	3,500,000	3,472,897	27,103
徴収不能引当金繰入額	3,962,480	1,260,000	2,702,480
[予備費]	(0) 25,000,000		25,000,000
消費支出の部合計	2,605,940,432	2,478,904,058	127,036,374
当年度消費支出超過額	923,587,992	489,534,801	
前年度繰越消費支出超過額	4,605,030,324	4,605,030,324	
基本金取崩額	40,944,484	40,944,484	0
翌年度繰越消費収支超過額	5,487,673,832	5,053,620,641	

(3) 消費収支経年比較表

学園全体 平成18年度～平成22年度

(単位：百万円)

科 目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	前年度比
学生生徒等納付金	1,900	1,742	1,595	1,536	1,508	△28
手数料	38	28	29	29	32	3
寄付金	5	6	6	3	17	14
補助金	502	506	489	476	480	4
資産運用収入	15	20	16	12	10	△2
資産売却差額	0	1	0	0	0	0
事業収入	153	137	123	127	121	△6
雑収入	58	42	67	151	106	△45
帰属収入計	2,671	2,482	2,325	2,334	2,274	△60
基本金組入額計	△122	△90	△862	△85	△285	△200
消費収入の部計	2,549	2,392	1,463	2,249	1,989	△260
人件費	1,640	1,492	1,433	1,357	1,493	136
教育研究経費	775	752	850	831	700	△131
管理経費	216	233	235	231	278	47
借入金等利息	4	3	2	4	3	△1
資産処分差額	0	0	0	1	4	3
徴収不能額	5	1	0	0	1	1
消費支出の部計	2,640	2,481	2,520	2,424	2,479	55
消費支出超過額	91	89	1,057	175	490	315

(4) 消費収支経年比較表 消費収支計算書関係比率

学園全体 平成18年度～平成22年度

(単位：%)

	比 率	財務比率	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備 考
1	人件費比率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	61.4%	60.1%	61.6%	58.1%	65.6%	
2	人件費依存率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}$	86.3%	85.7%	89.8%	88.3%	99.0%	
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	29.0%	30.3%	36.5%	35.6%	30.8%	
4	管理経費比率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	8.1%	9.4%	10.1%	9.9%	12.2%	
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借 入 金 等 利 息}}{\text{帰 属 収 入}}$	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	
6	消費支出比率	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{帰 属 収 入}}$	98.8%	99.9%	108.4%	103.9%	109.0%	
7	消費収支比率	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{消 費 収 入}}$	103.6%	103.7%	172.2%	107.8%	124.6%	
8	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	71.1%	70.2%	68.6%	65.8%	66.3%	
9	寄付金比率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	0.2%	0.2%	0.3%	0.1%	0.8%	
10	補助金比率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	18.8%	20.4%	21.0%	20.4%	21.1%	
11	基本金組入率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額}}{\text{帰 属 収 入}}$	4.6%	3.6%	37.1%	3.7%	12.5%	
12	減価償却費比率	$\frac{\text{減 価 償 却 額}}{\text{消 費 支 出}}$	14.1%	13.4%	11.8%	12.0%	10.7%	

4. 監事の監査報告書

監 査 報 告 書

平成 23 年 5 月 25 日

学校法人 武田学園
理事長 武田哲司 殿

学校法人 武田学園

監事 友廣 和有
監事 久保田 宏温

私たちは、学校法人武田学園の監事として、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人武田学園寄附行為第 16 条の規定に基づき、学校法人武田学園の平成 22 年度(平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで)の業務並びに財産の状況について監査した。

私たちは、監査に当たり、理事会及び評議員会に出席し、理事から業務の報告を聴取し、重要な決済書類を閲覧するとともに、会計監査人と連携し、計算書類について検討するなど、必要と思われる監査手続を実施した。

監査の結果、学校法人武田学園の業務に関する決定及び執行は適切であり、計算書類、すなわち資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む。）並びに財産目録は、会計帳簿の記載と合致し、その収支及び財産の状況を正しく示しており、業務または財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認める。

以上